

「寒地土木研究所 新技術説明会（青森）」を開催

寒地技術推進室

「寒地土木研究所 新技術説明会」は、寒地土木研究所が研究開発した新技術について、公共工事等の現場での活用を推進するため、全国の積雪寒冷地域を対象に各地の技術者にとって関心の高いテーマで講演を行っているものです。今回は青森県青森市で開催した「寒地土木研究所 新技術説明会（青森）」の結果を報告します。

1. 概要

2022年8月25日に「寒地土木研究所 新技術説明会（青森）」（会場：青森市男女共同参画プラザ カダール）を開催し、国や地方公共団体、コンサルタント、建設業に携わる技術者など76名にご来場いただきました。

2. 講演技術の紹介

2. 1 吹雪時の視程推定技術と情報提供(雪氷チーム)

気象庁から配信される降水強度と風速、気温、湿度の気象データを入力値として、気象条件から吹雪時の視程を推定する手法により視程を予測する技術です。予測した視程情報は、平成24年度よりインターネットを通じて試験提供しています。

2. 2 AIS3【凍結防止剤散布支援システム】 （寒地交通チーム）

AIS3とは、オペレータの熟練度に左右されず、かつ一人乗車（ワンマン化）でも安全で確実な凍結防止剤散布作業を可能とする支援技術です。

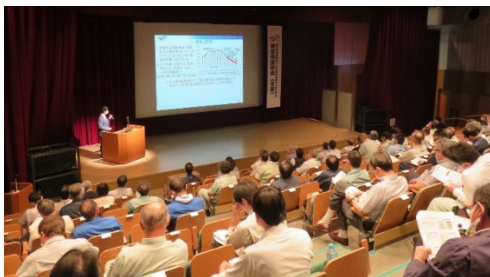


写真-1 技術講演（寒地交通チーム 大廣主任研究員）

2. 3 景観検討にどう取り組むかー景観予測・評価 の手順と手法ー（地域景観チーム）

景観検討は、構造物や周囲景観の議論・評価を行い、その結果を設計に反映することが重要です。しかし景観検討の知見や経験が十分でない技術者には難しい面があります。そこで、景観検討がより良いものに近づけるよう、そのポイントをとりまとめました。

2. 4 衝撃加速度試験装置を用いた盛土および石 灰・セメント改良盛土の品質管理技術 （寒地地盤チーム）

衝撃加速度の値から盛土の密度や強度を推定する装置により盛土の品質を管理する技術です。誰でも簡単に操作でき、従来の砂置換法と比べ迅速（時間約90%短縮）かつ安価（コスト約80%縮減）にできます。

2. 5 コンクリート構造物における表面含浸材の適 用手法（耐寒材料チーム）

コンクリートのスケールや塩害の抑制対策として適用事例が増えている表面含浸材について、現場での適切な使い方を「道路橋での表面含浸材の適用にあたっての留意事項」としてとりまとめました。

3. おわりに

「寒地土木研究所 新技術説明会（青森）」の開催にあたり、多くの方にご協力頂きました。この誌上をもちまして感謝申し上げます。なお、今後も寒地土木研究所では、「寒地土木研究所 新技術説明会」をはじめ各種イベント¹⁾を予定しております。

- 1) 開発技術の紹介HP
<https://chouseikan.ceri.go.jp/suishin/gijutu.html>



（文責：佐々木 泰訓）